

2021年（令和三年）

1月29日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

1/14～1/20のNYMEX・WTI先物市場は、52.36～53.57ドルの範囲で推移した。

1月21日は、この日の米国石油協会(API)の原油在庫報告が市場予想に反する積み増しで、翌日予定の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫報告でも増加が予想されることから、3営業日より反落した。この日から取引の中心限月に繰り上がった3月限の終値は前日比0.18ドル安の53.13ドル。

週末22日は、三連休と大統領就任式で2日遅れで発表のEIAの原油在庫週報は、440万バレル増と市場予想(120万バレル減)に反する積み増しで、需要の減速懸念から、続落した。中国での感染再拡大の報道、株式市場の軟化も、値下がり要因となった。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比2基増の289基と9週連続の増加となった。3月限の終値は前日比0.86ドル安の52.27ドル。

週明け25日は、売り買いが交錯し荒い値動きの中、産油国側の減産の動き等から、3営業日より反発した。OPECでは、イラクから昨年の違反増産分の1・2月での減産の発表があり、リビアも原油出荷の一部停止の報道、OPECプラスの協調減産の現時点の順守率85%との報道など、需給改善の動きが見られた。バイデン政権と議会の追加経済対策に関する合意も値上がり要因となった。3月限の終値は前週末比0.50ドル高の52.77ドル。

26日は、世界各地での新型コロナの感染再拡大への懸念で小反落した。ただ、国際通貨基金(IMF)の2021年世界経済成長見通しが5.5%増と0.3ポイント上方修正されたとの発表、サウジアラビアの首都リヤドで原因不明の爆発が発生し

たとの報道もあり、下値は限られた。3月限の終値は前日比0.16ドル安の52.61ドル。

27日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫が前週比990万バレル減と市場予想に反する取り崩しで反発した。ただ、ガソリン在庫は積み増しの報告、また、新型コロナの感染再拡大への懸念などで、上値は重かった。3月限の終値は前日比0.24ドル高の52.85ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は1月14日～20日の間54.30～56.00ドルの範囲で推移した。1月21日55.70ドル、22日55.00ドル、25日55.10ドル、26日55.10ドル、27日55.80ドルと推移した。

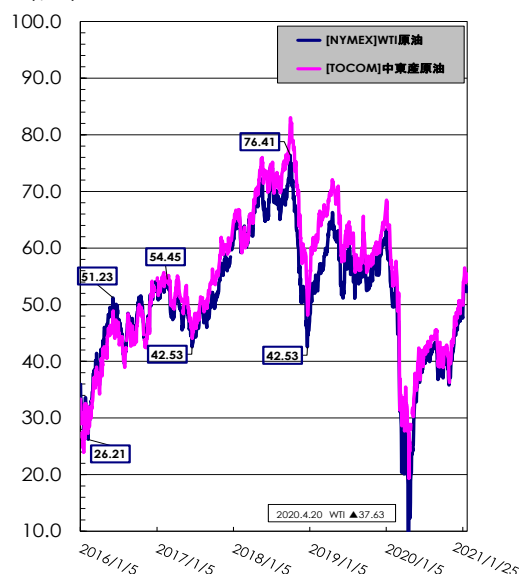
為替は1月14日～20日の間103.74～103.95円の範囲で推移した。1月21日103.61円、22日103.53円、25日103.84円、26日103.77円、27日103.68円で推移した。

財務省が1月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は、31,169円/klで、前旬比1,791円高、ドル建て47.86ドルで前旬比2.90ドル高、為替レートは1ドル/103.55円。

そのような中で、1月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週(1月18日)比1.3円の値上がり、軽油も同1.3円の値上がり、灯油は17円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油も9週連続の値上がりだった。この週(1月第4週)の原油コストはほぼ横ばい、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比据え置きとなった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/17 ~ 1/23	3,110	▲ 111	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.8	▲ 2.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/23	10,985	▲ 188	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/25	54.45	▲ 0.57	▼ -2.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/25	52.77	▼ -0.21	▼ -0.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	47.86	▲ 2.90	▼ -22.47
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	31,169	▲ 1,791	▼ -17,185
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	103.55	▲ 0.35	▲ 5.76
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/25	104.84	▼ -0.01	▲ 5.22

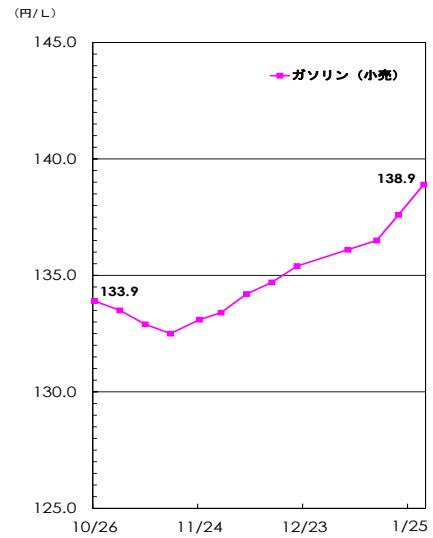
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/17 ~ 1/23	839 ▼ -30	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	755 ▼ -35	▼ -
	輸出	"	107 ▲ 77	▲ -
	在庫	1/23	2,061 ▼ -23	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/19 ~ 1/25	49.4 ▼ -0.1	▼ -12.4
	先物 [期近物/終値]	1/19 ~ 1/25	46.8 ▼ -0.1	▼ -9.4
	(TOCOM/中部)	1/25	49.7 ▲ 0.5	▼ -7.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/25	138.9 ▲ 1.3	▼ -12.6

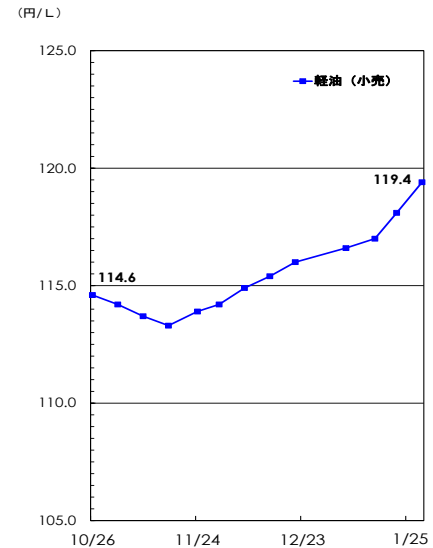
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

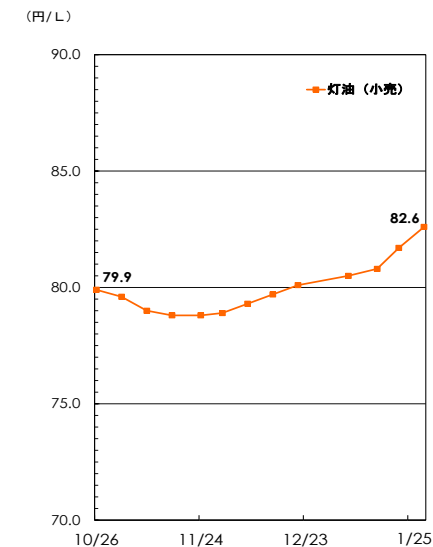
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/17 ~ 1/23	653 ▲ 44	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	659 ▲ 68	▼ -
	輸出	"	93 ▲ 43	▼ -
	在庫	1/23	1,723 ▼ -100	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/19 ~ 1/25	52.2 0.0	▼ -13.2
	先物 [期近物/終値]	1/19 ~ 1/25	53.2 ▼ -0.4	▼ -12.9
	(TOCOM/中部)	1/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/25	119.4 ▲ 1.3	▼ -12.3

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/17 ~ 1/23	442 ▼ -126	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	398 ▼ -233	▲ -
	輸出	"	74 ▲ 15	▲ -
	在庫	1/23	2,115 ▼ -29	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/19 ~ 1/25	52.1 ▲ 0.1	▼ -12.6
	先物 [期近物/終値]	1/19 ~ 1/25	50.4 ▼ -0.8	▼ -9.7
	(TOCOM/中部)	1/25	51.0 ▼ -1.0	▼ -10.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/25	82.6 ▲ 0.9	▼ -12.3



## ■ 関連情報

## 1 海外/原油

1月27日のNYMEXのWTI先物原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫が前週比990万バレル減と市場予想(同40万バレル増)に反する取り崩しで、需給改善への期待から、反発した。ただ、ガソリン在庫は同250万バレル増(市場予想:同180万バレル増)と積み増しの報告、中間留分在庫は同80万バレル減(市場予想:同40万バレル減)であった。また、新型コロナの感染再拡大への懸念、米国株式市場の軟化の影響もあり、上値は重かった。3月限の終値は前日比0.24ドル高の52.85ドル、4月限の終値は同0.21ドル高の52.73ドル。

EIAによると、1月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値上がりの1ガロン2.392ドル(66.2円/ℓ)、ディーゼルは同2.0セント値上がりの2.716ドル(75.1円/ℓ)となった。ガソリンは9連続の値上がり、ディーゼルは12週連続の値上がりだった。

## 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年1月17日～1月23日に休止したトッパ能力は15.7万バレル/日で、前週に対して12.9万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は311.0万klと、前週に比べ11.1万kl増加。前年に対しては30.6万klの減少。トッパ稼働率は80.8%と前週に対して2.9ポイントの増加、前年に対しては6.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.5%減、ジェット/47.2%増、灯油/22.2%減、軽油/7.2%増、A重油/7.6%増、C重油/8.9%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は9.3万kl(前週比4.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油、A重油が増加、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は75.5万kl(対前週4.5%減)と2週振りに減少した。ジェット3.6万kl(対前週68.1%減)、灯油39.8万kl(対前週37.0%減)、軽油65.9万kl(対前週11.5%増)、A重油27.1万kl(対前週0.6%増)、C重油19.5万kl(対前週20.4%減)。

(単位: 千kl)

	今週 (1/17 ~ 1/23)	前週 (1/10 ~ 1/16)	前週比
ガソリン	755	790	▼ -35 (-4%)
ジェット燃料	36	112	▼ -76 (-68%)
灯油	398	631	▼ -233 (-37%)
軽油	659	591	▲ 68 (12%)
A重油	271	269	▲ 2 (1%)
C重油	195	245	▼ -50 (-20%)
合 計	2,314	2,638	▼ -324 (-12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月23日時点の在庫は、ジェット、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、A重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは206.1万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては26.6万kl多い。

灯油は211.5万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては2.4万kl多い。

軽油は172.3万kl、前週差10.0万kl減。前年に対しては15.1万kl多い。

A重油は73.3万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては2.0万kl少ない。

C重油は186.1万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては5.1万kl少ない。

(単位: 千kl)

	今週 (1/23)	前週 (1/16)	前週比
ガソリン	2,061	2,084	▼ -23 (-1%)
ジェット燃料	726	725	▲ 1 (0%)
灯油	2,115	2,144	▼ -29 (-1%)
軽油	1,723	1,823	▼ -100 (-5%)
A重油	733	747	▼ -14 (-2%)
C重油	1,861	1,851	▲ 10 (1%)
合 計	9,219	9,374	▼ -155 (-1.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月19日～25日の指標原油価格は前週(1月12日～18日)比でほぼ横ばい、為替レートもほぼ横ばいで、円建ての原油コストはほぼ横ばいであったと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月19日～25日の製品スポット市況は、1月12日～18日平均と比べ、先物の全取引と陸上・ガソリンで値下がり、陸上・軽油、海上・灯油で横ばい、それ以外の取引で値上がりした。

直近(1/19～1/25)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は横ばいだった。直近週(1/19～1/25)において、ガソリンは102～103円台で値下がり、灯油は51～52円台でわずかに値上がり後値下がり、軽油は51～52円台で出入り後値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/19～1/25)に、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は1.1円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(1/19～1/25)に、ガソリンは105円台でほぼ横ばい、灯油は51円台でわずかに値下がり、軽油は53～54円台で値上がりで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。先物価格は、同期間(1/19～1/25)に、ガソリン100円台で値上がり後わずかに値下がり、灯油50円台でわずかに値上がり後値下がり、軽油52～53円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/19～1/25)	前週 (1/12～1/18)	前週比
	レギュラー	49.4	49.5	▼ -0.1
	灯油	52.1	52.0	▲ 0.1
	軽油	52.2	52.2	→ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	期近物/終値 [平均]	今週 (1/19～1/25)	前週 (1/12～1/18)	前週比
	レギュラー	46.8	46.9	▼ -0.1
	灯油	50.4	51.2	▼ -0.8
	軽油	53.2	53.6	▼ -0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/19～1/25実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.1	▼ -0.1	▼ -0.1	
灯油	▲ 0.1	▼ -0.8	▼ -0.3	
軽油	→ 0.0	▼ -0.4	▼ -0.2	
A重油	▲ 0.7			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(1月18日)比1.3円高の138.9円、軽油も同1.3円高の119.4円、灯油は18ℓベースで同17円高の1,487円(1ℓベースでは82.6円の同0.9円高)。ガソリンは9週連続の値上がり、軽油も9週連続の値上がり、灯油も9週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはないだった。全国最安値は131.5円の徳島県(同1.6円高)、その次に安かったのは133.3円の宮城県(前週比0.4円高)、最高値は148.0円の鹿児島県(同1.3円高)だった。最も値上がりしたのは、同3.4円

高の神奈川県(137.5円)、横ばいは高知県、値下がり県は、なしだった。

今週(1月19日～25日)は、指標原油価格はほぼ横ばい、為替レートもほぼ横ばいで、円建ての原油コストはほぼ横ばいであったと見られる。次週(1月28日～2月3日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比横ばいとなった。次回調査時(2月1日)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)		
小 売 価 格	週動向]	今週 (1/25)	前週 (1/18)	前週比
	レギュラー	138.9	137.6	▲ 1.3
	灯油	82.6	81.7	▲ 0.9
	軽油	119.4	118.1	▲ 1.3

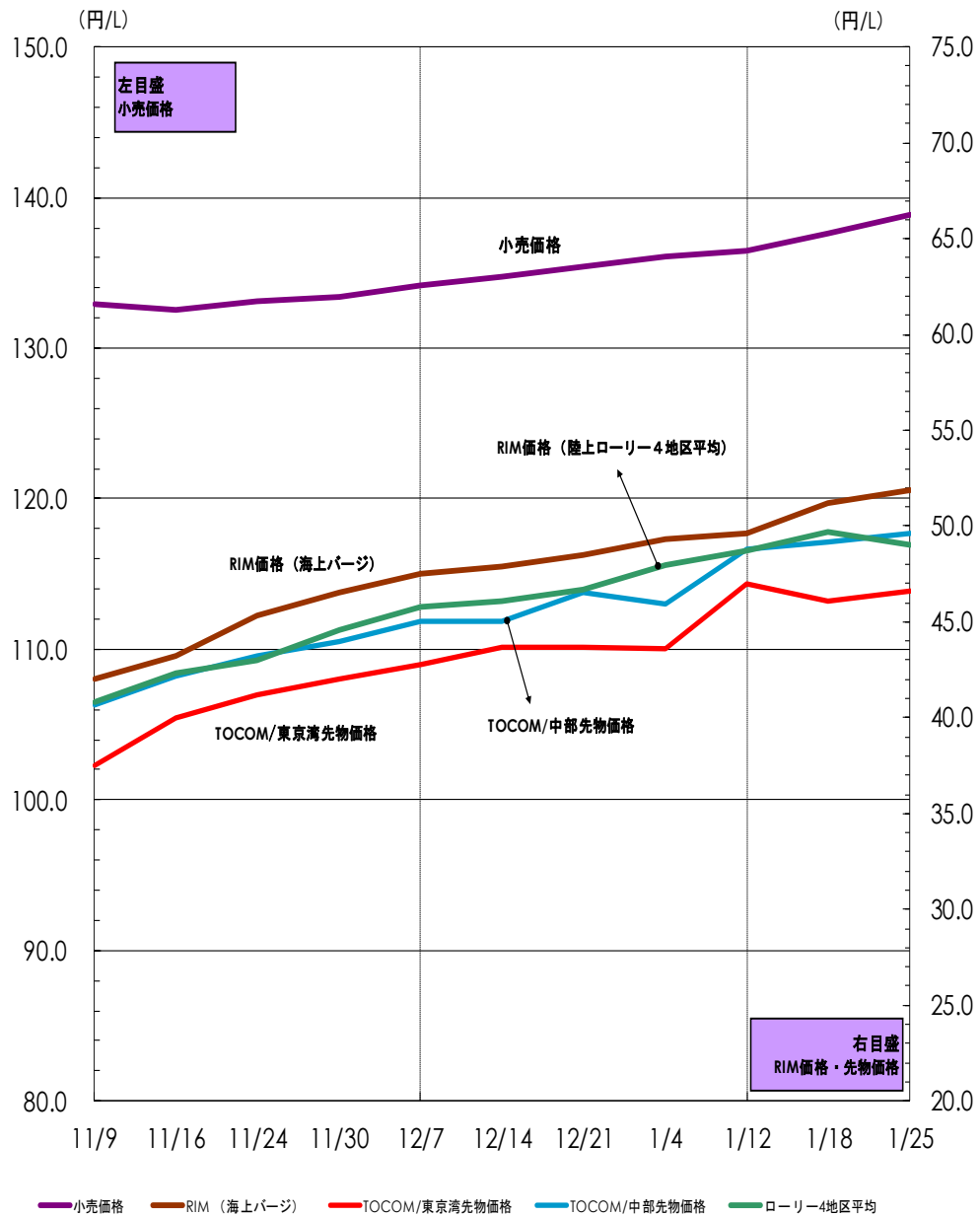
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/11/9 ~ 2021/1/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第30号)の公表は、2/5(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。